

馬術・関東学生三大大会

全種目とも団体3位

個人は鶴林4位、菅谷5位



▲ 1年次生ながら上位入賞した菅谷(撮影・久田)

関東学生賞典障害飛越競技大会、同馬場馬術競技大会、同総合馬術競技大会からなる関東学生馬術三大大会が6月26日から29日まで、JRA馬事公苑で行われた。全種目とも団体3位で、3種目総合でも3位となった。個人は、馬場馬術で鶴林舞(商2・市立前橋

高)・ヴァリアント号が4位、総合馬術で菅谷泰一(経済1・浦和東高)・エンドーペロー号が5位に入賞した。

試合後、富沢健悟監督は開口一番「今年の戦力でこの結果は満足です。苦手とする障害飛越の余力審査で順位を上げられたことが大きい。この夏、選手の育成力と馬の完成度を上げて、より確実な力をつけたい」と語った。

武井慎弥主将(経済4・奈良高)は「総合馬術の耐久審査ではアクシデ

ントが起きたが、もちこたえられた。3種目とも秋の全日本学生選手権の出場枠が獲得できて何よりでした」と話した。

東京大会第9競技

鶴林が優勝

東京大会が6月6～8日、同会場で行われ、第9競技セントジョージ賞典馬場馬術課目で鶴林・ヴァリアント号が優勝した。また6月14、15日に

行われた関東学生争覇戦は4位に終わった。

(久田 照喬・商2)